



通信 Jun.

梅雨に入りました。天気が悪いと気分がすぐれないですね。でも、雨の恵みで元気になる植物もあります。アジサイやスイレンなど見つけたら元気をもらいましょう。

個個港学舎 舎長 八木貴子

学習状況のお知らせ

塾では、保護者面談を実施し学習効果の確認や、個別の夏期講習の計画をしています。家庭の行事、部活を考慮してスケジュール調整を致しますので、早めにお申し込みください。

特別企画:屋久杉の再生

「もののけ姫」のモチーフとなった「苔むす森」で癒されたくて、屋久島に行きました。独特の地形や気候のおかげで生まれた巨樹と清流に感動し、アップダウンに閉口しながらの約6時間のトレッキングでした。



樹齢を100年単位で数えられ、千年を越えてはじめて屋久杉と呼ばれる杉の老木。屋久島にはおよそ1万本ほどのヤクスギがあるとされています。

杉は明るい所でしか育たないため、びっしりとつまった小杉の林では新しく育つ場所がありません。ところが風雨の影響で巨木が倒れると、ぽっかり陽の

あたる場所ができます。その明るい倒木の上に杉の種が落ちると芽が出て育っていきます。これを**倒木上更新**と呼んでいます。倒れた木の上に新たに芽が出て育っていくわけです。新しいスギがいろんな樹種と一緒に芽を出し、生存競争に打ち勝ったものだけが、大きなスギに育つことになります。

屋久島は雨が多いことや霧がかかることから木の生育に欠かせない水分の補給が容易なため、切り株や倒木の上、また岩に生えたコケからでもスギが大きくなります。屋久島では比較的容易に見ることができます。倒木や切り株の上には小さな若い芽の

たくましい生命力を感じることができます。

倒木上更新は深い森の中で展開される絶妙な世代交代の仕組みです。



文化遺産-19-山・鉾・屋台行事その2

新庄まつりの山車行事

毎年8月24日～26日に開催される新庄まつり。江戸時代中期の1756年、新庄藩主・戸沢正誼(まさのぶ)が、大凶作で疲弊した民衆を活気づけるため、天満宮の祭礼を領民あげて行ったことに由来します。



まつりの主役は**荘厳な山車(やたい)**。一台一台趣向を凝らし、歌舞伎の名場面や歴史絵巻を作り上げます。20台にも及ぶ山車製作を手がけるのは、旧城下町ごとに組織される「若連(わかれん)」。毎年1月には構想を練り、まつりの2か月ほど前から「山車小屋」で本格的な製作を開始します。山車に飾られる建物、自然景観、人物や動物の人形、衣装や小物にいたるまで、すべてが創意工夫による手づくり。人形の頭・手足は、代々100年以上にわたりまつりを支えてきた、人形師の野川家が手掛けます。



本番1週間前になると、若連は夜遅くまで山車小屋にこもりっぱなし。我が子に、立派な山車を曳かせてやりたいという親心で、さらに作業に熱がこもります。一方、子どもたちは、

毎晩、山車づくりに出かける父親を見て、どんな山車ができあがるのかワクワク。まつりにかける熱意は、こうして親から子に、子から孫へと受け継がれ、脈々と息づいているのです。

初日は宵まつり。日が暮れ始めた夕刻、子どもたちに曳かれて山車が動き出します。響き渡るのは、「チェレンコヤアッサー！！」という元気な掛け声と囃子若連が奏でる華やかな音色。照明に照らされた歴史絵巻が、宵闇に浮かび上がります。壮大なパレードに会場はまつり客の歓声に包まれ、熱気で溢れかえるのです。

2日目、本まつり。街を練り歩くのは、新庄藩の武士に扮した総勢200名余りの神輿渡御行列(ミコシトギョギョウレツ)。それに続いて山車も



駅前通りを抜け、広場へ向かいます。**3日にわたって練り広げられた新庄まつり**は、夕刻の手締式で閉幕します。

熱いまつりの余韻は、来年、再来年、さらにその先へ継承していく決意を新たにさせます。こうして繋いできた伝統、**山車は、市民の意気。世界に誇る新庄の宝**なのです。